

第76回日本栄養・食糧学会大会 発表報告

(2022年6月10日(金)～12日(日) 武庫川女子大学)

研究員1名、博士1年1名、修士2年生1名、学部4年生3名が第76回日本栄養・食糧学会大会で一般演題の発表を行いました。全国学会初参加の学生の感想も含めてご報告します。

● 発表演題

猪川 聡美 (研究員)

「男性勤労者の高血圧発症要因—職域における栄養教育と食環境介入のための疫学的検討」

李 佳 (博士1年生)

「糖尿病患者を対象とした高アミロース米「ホシニシキ」によるFGMで評価した食後のグルコース値への影響」

許 婷婷 (修士2年生)

「高アミロース米の食後血糖値に関するシステムティックレビュー」

古川 結唯 (学部4年生)

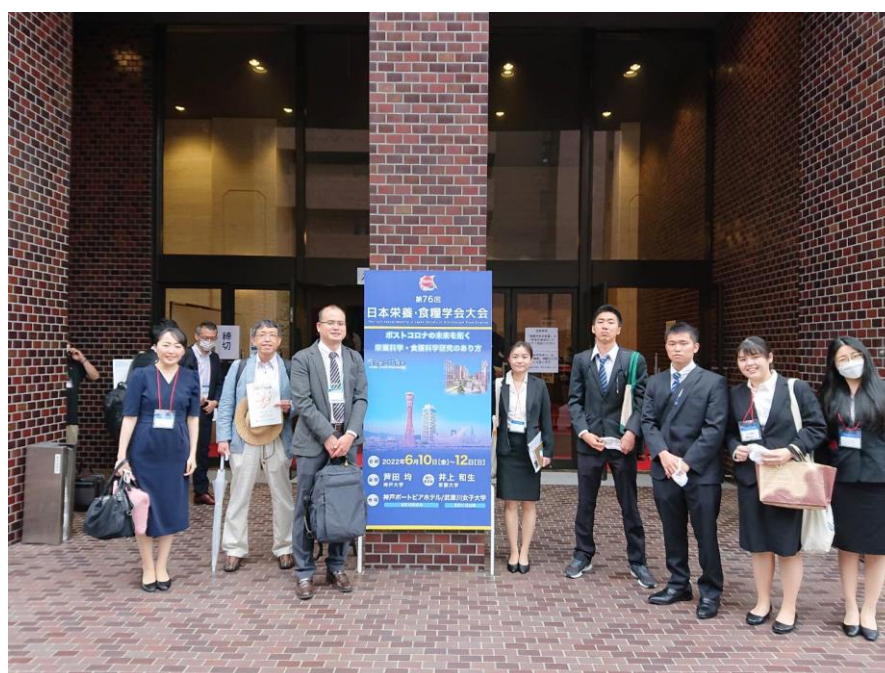
「BMIと糖尿病発症との関連における栄養補助食品の影響：東温スタディ」

石木 純 (学部4年生)

「菓子類摂取量と要介護認知症の関連：東温スタディ」

土居 龍之介 (学部4年生)

「瀬戸内地域の食品を使った健康食パターンの確立」



● 感想

許 婷婷

「私は、今回『高アミロース米の食後血糖値に関するシステマティックレビュー』について発表しました。コロナ以来、対面発表は初めてで、ONLINE 発表と全然違いました。人が多いし、他の発表者全員すごく感じました。私はすごく緊張した気持ちで発表を終わりました。質問された先生は優しかったです。ただ問題をよく聞いても、すぐに答えられず、答えも良くできませんでした。これから頑張ります。今回、他の人の発表内容、方法を見ることができて、本当に大きな収穫を得られました。嬉しかったです」

古川 結唯

「私は、『BMI と糖尿病発症との関連における栄養補助食品の影響』について発表しました。発表では、あまり緊張することなく練習通りの発表ができたと思います。また、苦手な質疑応答ではしどろもどろでしたが、自分の意見を伝えることができました。今後は、もっと自分の意見をわかりやすく相手に伝えることができるように自分の行っている研究について理解を深めていきたいです。また、他の参加者の人を惹きつける発表を聞くことができたのがとても良い刺激になりました。今回の経験を活かし、卒論発表ではもっと成長した発表ができるように頑張ります。」

石木 純

「今回の学会で、菓子類摂取量と要介護認知症の関連について発表を行いました。初めて対面での発表だったため、緊張しましたが、思ったより上手く発表でき、質問に対する回答もしっかりと答えられたため、よかったです。また、ポスター発表も行い、その際の質疑応答で、自分の研究に足りない部分が分かったため、今後の研究に活かそうと思いました。そして、他の方の発表を聞いて、今後の研究発表に必要なことを学ぶことができました。」

土居 龍之介

「私は地中海式ダイエットを瀬戸内海地域で採れる食材で代替するという『瀬戸内海式ダイエット』についての発表を行いました。かなり緊張し、時間も余ってしまいましたが、ゼミでの質問と同じ内容の質問がきたためうまく答えられました。また、いろいろな人の発表を見て、質疑応答の質問の際の着眼点や発表の姿勢など、学ぶべきものがたくさんありました。」

ちなみに、本学会では丸山も以下の内容で発表させていただきました。

シンポジウム 5 「不活動にともなうフレイルの解決にむけた食と運動の最新動向」

SY05-2 「コロナ禍によって生じたフレイルに関連する食の変化」

お聞きいただいた皆様、誠にありがとうございました。